

第37号 社協だより

福祉活動の体験学習

湯前小・中学生
53名が参加

ワークキャンプ開催

社協では、福祉教育の理解とボランティア活動の推進を図ることを目的にワークキャンプを実施しました。
ワークキャンプとは、お年寄りの方や身体の不自由な方々が利用されている福祉施設等で、通いながらボランティア活動を体験するものです。夏休みを利用して開催したワークキャンプには、小学生、中学生、社会人の方に募集をかけたところ、小学生23名、中学生30名が参加しました。
夏休み前にはワークキャンプ参加への心構えを学ぶための説明会を行い、小学生は7月の2日間、中学生は8月の2日間、郡内3施設に分かれてワークキャンプを実施しました。

参加者の感想

「学んだこと」

湯前中学校二年 永池 愛

中学生になって初めてのワークキャンプで初めての翠光園でした。

一日目はデイサービスでお年寄りの方とちゃんと話せるか心配だったけど、お年寄りの方からお話をしてくださって、ぎこちなかったかもしれないけど話すことができました。少しづつだったけれど自分から「お名前を教えてください。」とか言えるようになりました。それに、周りを見てお手伝いしたりできるようなになりました。

二日目は、特別養護でした。車イス体験

では、段がある所やのぼり、くだりのところそれぞれ車イスをおしたり、車イスにのつたりしました。とくに、車イスでくだるときは、押しているときはどうもなかったけど、車イスにのつているときはすごくこわかったです。車イスにのつておられる方の気持ちがよくわかりました。

「こんなにこわいんだあ。」
と、思っ、相手の事を考える大切さを学びました。そして、しんらい関係がすごく必要ということも学びました。

二日目でお年寄りの方と自分から話すことがたくさんできたり、人の気持ちを考えることができたり、お年寄りの方とお買い物、車イス体験など、もう二度とできないような事ができてよかったです。

二日間のワークキャンプを通して
「きつかった。」
とかじゃなくて
「楽しかった。」
と、思いました。充実した二日間でした。これからの生活で生かしていくことのできる「相手の気持ちを考える」ことや「しんらい関係」、「勇気」いろんなことを学ぶことができました。ワークキャンプでたくさん学んだ事を生活の中で生かしていきたいです。



ワークキャンプ一日目がおわって家に帰ってからデイサービスでやっていた体操を、うちのおばあちゃんと一緒にやってみました。こんな風にできたのもワークキャンプで学んだからだと思います。

「来年もいきたい。」
と心から思いました。来年もワークキャンプに参加して、お年寄りの方と楽しく話したりまたいろんな事を学んだりしたいです。
この二日間本当に充実した日をおくれてよかったです。

「ワークキャンプに参加して、かんじた事」
湯前小学校五年 福田菜摘
私は、ワークキャンプを通して、かんじた事があります。

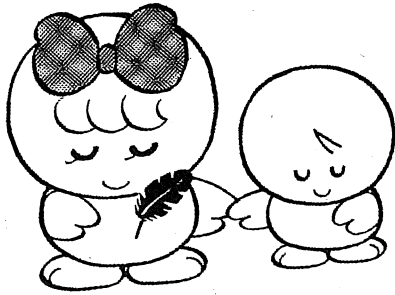
一つ目は、命の大切さについてです。はじめて入浴の助けをした時、足や手がうごかない方や、指や手を変な方向に曲がっている方がいるの気がつきました。それでも、湯愛のお世話をしてくる方々に助けってもらいながら歩いたりしている人もいました。あく手をした時には、右手がうごかせなくて、左手であく手をする方がいました。そんな方々がいつしようにけんめい体をうごかそうとしていて、ところが、とてもいんしようにのこりました。ごほんも、おかゆの方やふつうのごほんの方など、いろいろな方々がいることがわかりました。自分で、ごほんを食べることができない方を車いすにのせた時、
「この重さは、命の重さと同じだな。」
と思いました。

「どんな形でも、生きていくことはみんな同じだ。」
そう、車いす体験などを通してかんじました。
二つ目は、やさしさについてです。湯愛のお世話をする方々がやさしくすることは当せんです。でも、利用者の方々も、みんなにやさしくしていただきました。利用者の方と手をつないだ時も、あく手をつなげた時も、利用者の方々の手は、とってもあつたかかったです。手の熱さなどではありません。利用者の方々の、そのまのやさしさでした。私がおねがいます。
「おねがいます。」
「ありがとうございます。」
「ごめいわくをかけた。」
こんな言葉がいつもきこえてきました。利用者の方々は、みんなを大事にしているんだらうと思えました。私のはなしづらいた時には、利用者の方からはなしかけてもらったりしました。
利用者の方々は、湯愛や人々を大切にしていってほしいです。



赤い羽根共同募金活動

あかいはねは、おもいやりのしるし



共同募金活動のシンボルである「赤い羽根」は、たすけあいの心、思いやりの心、いたわりの心を表したものです。

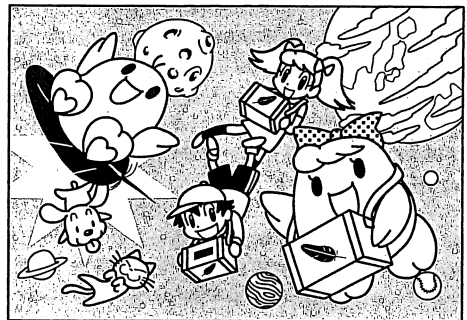
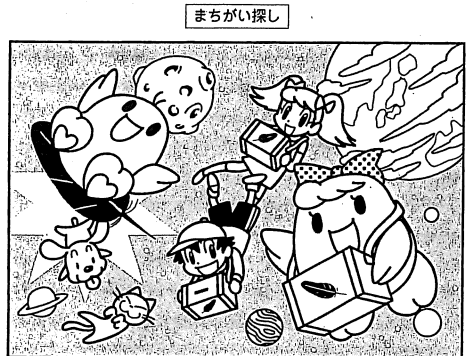
この心をつちかい育みながら、だれもが平等に暮らせる喜びに満ちた地域になることが、赤い羽根共同募金活動の一つの願いでもあります。

今年も、10月より12月までの3ヶ月間に「地域の福祉、みんなで参加」をスローガンに全国一斉に募金活動が展開されています。

湯前町におきましても、共同募金会湯前町分会（社会福祉協議会内）において、大口法人募金、職域募金、学校募金などを展開しておりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

戸別募金につきましては、一世帯あたり500円を目標額に事業推進委員である各地区の区長さんにご協力をお願いし、学校募金と街頭募金では児童・生徒の皆さんのご協力をいただき、大口法人募金と職域募金につきましては、職員ほか役員が訪問をして募金のお願いにまわりました。皆さんからいただいた募金につきましては、民間の社会福祉施設の資金（たとえば老人ホームなどの整備費など県全体の福祉を向上させるための資金）として、社会福祉協議会の地域福祉推進活動として使われます。また、大きな災害が起こったときのためにも使われ、さまざまな場面で福祉推進のために使われています。

11月2日の漫画フェスタ会場内において、湯前中学校の生徒の皆さんによる街頭募金活動を行いました。募金ボランティアの皆さん、募金にご協力いただいた皆さん、大変ありがとうございました。



● 赤い羽根の募金活動 ● 赤い羽根の募金活動 ●
● 赤い羽根の募金活動 ● 赤い羽根の募金活動 ●
● 赤い羽根の募金活動 ● 赤い羽根の募金活動 ●
● 赤い羽根の募金活動 ● 赤い羽根の募金活動 ●

借金でお困りではありませんか？
九州財務局

九州財務局の「多重債務相談窓口」では、相談員が借金のごことでお悩みの方からのご相談を受け付けています。
いま、どのような事でお困りなのか、あなたの話をお聞かせ下さい。解決に向けて一緒に考えていきましょう。
必要に応じて、弁護士・司法書士等の専門家におつなぎいたします。
お気軽にご相談下さい。

- 対応時間
月～金曜日（祝祭日を除く）9～12時
・13～17時
- 費用 無料
- 住所 〒860-0858
熊本市二の丸一番二号
（合同庁舎内）
- 専用電話
Tel 069・351・0150

